

# 日本聖公会 全国青年ネットワークニュース

第32号

2009年5月25日発行

## 第4回 日韓聖公会青年セミナー 2009

～変化する未来と日韓聖公会青年の課題～

**参加者募集!**

今夏、8月13日(木)～18日(火)に「第4回日韓聖公会青年セミナー」が開催されます。今年は韓国の北朝鮮国境近く、江原道(カウオンド)華川(ファチョン)という所です。

「日韓聖公会青年セミナー(当時日韓青年交流キャンプ)」は、4年前に「日韓協働委員会」から「青年委員会」が引き継ぎ、今までの向かい合い互いを理解し合う関係から、東アジアの平和を目指し、同じ方向を向いて共に歩む関係を築いていこうという意図を持っています。

第1回目は河口湖畔で行われ、憲法改悪、滞日外国人をめぐる課題、米軍基地の課題などを青年達自身が調べて発表して語り合いました。第2回目は韓国のソウルで行われ、両国の様々な宣教課題について話し合い、平和の種になるために何が出来るのかを模索しました。第3回目は沖縄での全国青年大会に参加してもらう形で、在日米軍基地の課題について共に学ぶ機会が与えられました。第4回目となる今回は、DMZ(非武装地帯)を臨みながら、韓半島の南北分断の歴史や日本が世界に誇るべき憲法9条の課題について学び合い、平和への思いを深め合いたいと思います。

参加者は両国で15名ずつ(各教区1名程度)の募集を行いたいと思います。7月24日(金)～25日(土)に名古屋で事前準備会も予定しています。参加費は準備会や交通費を含めて12万円、申し込みは、各教会に送付する案内をご覧ください、各教区青年担当者の方を通してお願いいたします。人数に制限はありますが、ふるってご参加下さい。

(青年委員会 司祭 矢萩新一、金沢聖ヨハネ教会牧師)



## 日本聖公会宣教150周年記念行事のお知らせ

2009年で日本聖公会は、宣教150周年を迎えます。9月には、これを記念して、記念礼拝と記念プログラムが開催されます。

記念プログラム「みんな集まれ!」では、教会や地域の特産物を売ってもよし!団体の活動をアピールしてもよし!の“ブースコーナー”, 来日が予定されているアジア諸国からのゲストを招いての“シンポジウム～東アジアの平和と聖公会の役割～”, “写真展～日本聖公会の歴史と今～”, “コンサート”, 米国聖公会総裁主教のショーリ主教を説教者としてお招きする“夕の祈り”, 誰もが参加できる楽しい“交流会”などを企画しております。

できるだけ多くの方々に参加いただき、出会いと交わりを喜べる機会にしたいと願っておりますので奮ってご参加ください。

### 日本聖公会宣教150周年記念プログラム「みんな集まれ!」

日時: 2009年9月22日(火) 11:00～20:00(部分参加も可)

場所: 立教大学池袋キャンパス

### 日本聖公会宣教150周年記念礼拝

日時: 2009年9月23日(水) 13:30～

場所: カトリック東京カテドラル聖マリア大聖堂

(青年委員会 河崎真理)

※詳細スケジュールやイベントのブース申込書等は、以下の日本聖公会HPでご覧いただけます。

<http://www.nskk.org/province/150th.htm>

※このイベントにあわせて、「全国青年大会リ・ユニオン」が開催されます。詳しくは、同封の案内または各教会に配付されているポスターをご覧ください。

## 「平和の礼拝—辺野古につながる」を通して

京都教区 松山健作

去る2月初旬、京都教区青年有志主催で「平和の礼拝—辺野古につながる」が行われた。これは2008年夏に行われた「全国青年大会 in 沖縄」を終えて、今後「青年活動として何ができるのだろうか」と考えた。その模索の一つである。全国青年大会で学んだこと、得たものを今後どのように反映させていけばよいのだろうか。これが一つの課題であった。

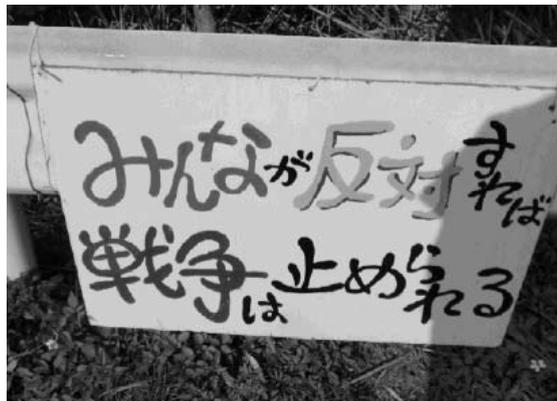
元来、キリスト教は、「平和」を志向している宗教のほずである。そして、私もイエス・キリストを信じる者として、平和を造りだすこと、考えること、祈ることにポジティブでありたいと思う一人である。特に私は、聖公会のアイデンティティを持ち、その教会にコミットする者として、聖公会の中から平和への歩みができればと強く願っていた。そういった中で、全国青年大会があった。大会中には、各教区の青年がこれからどのように歩むことができるのか、平和についてどのような意見を持つのか。その他にも様々な課題が与えられた。

それを踏まえて、京都教区では「平和の礼拝」と題して、大会後に平和学習・理解の時を持った。その中で、沖縄で米軍基地阻止運動が行われている辺野古から平和を想起し祈った。そして、京都教区では現在、「青年のつどい」として聖公会関係の歴史を学ぶ動きがある。そういった学びが平和を想起させる学びになるので、非常に嬉しく思う。

そのような歴史を顧みる動きに同調して、ここに私の個人的な意見を書きたいと思う。私が聖公会のアイデンティティを持ち、その教会にコミットする者であることは、上記した。その自らの教会の歴史を顧みた際に、日本聖公会が多くの罪を犯してきたことに気づかされる。私は歴史を学ぶ者として、その事実を残念に思うし、神の前に懺悔せずにはいられないという強い感情を抱くこともたびたびである。

日本聖公会は、1887年創立当時から非常に国家との親密な教会体質を持っていた。それは英国国教会からの影響である。そのため、国の教会としての意識が強かったのだろう。しかしながら、日本という文化や思想の中で、どのように聖公会が信仰的立場を示すのか、教会がどうあるべきなのかは、深く考えられなかったようである。そのため、歴史的に天皇のために祈り、戦争を肯定し、神社参拝を行った事実がある。以後、日本聖公会として『戦争責任告白』が出されたのは1995年のことであった。戦後50年という半世紀の間、私たちの教会は何をしてきたのだろうか？そんな疑問がふと頭をよぎる。しかし、『戦争責任告白』自体、聖公会として非常に意味あるものであり、私たちが今後どのように歩むのかという指針である。

戦後50年を経て、徐々に教会体質が変化してきた聖公会の中で、私は聖公会のアイデンティティも持ちながら、エキュメニカルに「平和」について考えていきたい。「平和」を想起させるだけでなく、「平和」のための努力を惜しんではならない。そして、何よりその根本にはイエス・キリストを信じる信仰者としての歩みが与えられることを祈っている。



### ☆おきなわ・へのこのこ通信☆

↓ 州教区・柴本孝次郎 祭を中心に編集され、主に沖縄・辺野古の情報を毎月15日に各種メール・リストなどへ届けて発信している通信。

#### 【趣旨】

命を守るために、  
加害者にならないために、  
人間同士が信頼しあって生きるために  
沖縄、辺野古は揺れ続けています。1996年、辺野古の海に新たな米軍基地建設計画が持ち上がったからです。これを止めるための完全非暴力による座り込み阻止行動が続けられています。

私たちは、そこで訴えられる「子どもや孫たちのために基地は要らない」「命の海を残したい」との思いに共感します。平和の主イエス・キリストに従う者として、辺野古の現場に生きる人々と協働していくために、この通信をお届けします。

(おきなわ・へのこのこ通信65号より、抜粋)

★「おきなわ・へのこのこ通信」が毎月投稿されている「全国青年ネットワークメールリストへの登録は、全国青年ネット HP から。 (<http://www.nskk.org/province/youth/>)

## 「第7回在日・日・韓基督教青年共同研修プログラム（共プロ）」

大阪教区 成岡宏晃

今回の共プロに参加させていただくまで、私は「沖縄問題」とか「米軍基地建設問題」といった形で、世間で取りざたされている諸問題を、「沖縄が抱える問題」と捉えていました。今思えば、とても恥ずかしいことです。なぜなら、これらの諸問題は、日本国民全員が自覚し抱えるべき問題だからです。辺野古や高江での座り込み現場だけでなく、沖縄国際大学に米軍ヘリが墜落した現場や、ところ構わず時間も気にせず沖縄の空を暴走するヘリ、米軍の所有地に設置された「日本国の法律によって罰せられます」と表示された看板などがそのことを物語っており、自分の足で沖縄の地に立つことの意味を強く感じました。

さらに、教派・国境を越えた素晴らしい仲間たちと共に沖縄で過ごせたことは、感謝すべきことです。特に、韓国の青年たちの祈りや讃美の歌声には力強さがあり、その全てに心がうち震えました。日々の主日礼拝では、直接目にするには出来ない仲間たちと共に過ごしたことで、信仰や祈りに対してもっと広い視野を持たなければならぬと教えられました。



また、この共プロは在日・日・韓の若者の交流ということもあって、歴史的にも大きな意義のある機会でした。本当に長い間、悲劇的な関係を続けてきたこの3者ですが、過去の歴史を受けとめ、二度と悲惨な出来事を繰り返すまいと、共に手を取り合って平和を祈り、主を讃美し、共に生きていくと実感することで、言葉や文化の違いをそれぞれが享受し、心が一つになったと感じられた素晴らしい6日間でした。

今回の共プロのためにご尽力してくださった皆様と、始めから終わりまで見守ってくださった神さまに心から感謝の意を表します。

### 九州教区・平和を考えるプログラム

#### 「長崎に立つ」

大阪教区 原楨希世子

今回10回目を迎える「長崎に立つ」が2月27日～3月1日に長崎聖三一教会で行われました。戦後の日本社会の歴史認識について勉強したり、高校生の署名活動のことを聞いたり、被爆体験を聞いたりし、それらのことについて考え、分かち合いをしました。

その中で特に印象に残っていることは、まず、高校生一万人署名活動です。私は今まで平和についてあまり深く考えたことがなかったので、平和を願って真剣にこの活動に取り組んでいる高校生を見て、今までの自分が恥ずかしくなりました。長崎に住むようになって、平和公園や爆心地、その他原爆に関するものをほぼ毎日見るので、それを見る度に戦争と平和について少しでも考えら

れるようにしたいです。そして、小学生の頃に被爆された深堀悟さんの証言では次のことにかかなりの衝撃を受けました。

深堀さんが、近くにいた被爆した人に水がほしいと言われ、あげたとき、その人はその水を飲むと亡くなってしまったそうです。そのことを、深堀さんは「私は二人の人を殺しました」という言い方をされました。私なら「殺すつもりはなかったけど、死なせてしまった」というような言い方で、自分が殺してしまったという事実から逃れようとするはずなので、深堀さんはしっかりと受け止め、責任を感じているのだろうな、と思いました。

今回、平プロに初めて参加して、私はまだまだ戦争と平和について知らないということを痛感しました。このような機会が与えられたことに感謝します。ありがとうございました。

## 京都教区青年の集い－聖公会を学ぶ

京都教区 司祭 小林聡

4月25日(土) 7名参加

大津聖マリア教会を会場に、テゼの祈りと学びのときを持ちました。これは3月に行われた京都教区臨時教区会後の宣教懇談会において、大津聖マリア教会の浮田倫太郎さんから発題があったことを受けたものです。浮田さんは青年にとっての学びの場の必要性を語られ、素朴な疑問が出し合える場を作り出してこうと、教区青年活動窓口が協力して今回の集いに至りました。会では、聖公会の歴史を6世紀頃から見えてきましたが、

途中居眠りする人が続出てきたので、10世紀くらいまでにして、その後はアングリカンと言う言葉についてや、聖公会と言う名前の起源など、質問が沢山出され、普段聞けないようなことを分かち合うことが出来、大変有意義でした。またテゼのヨーロッパ大会に二度参加された京都聖マリア教会の山本さんから、テゼのお話をしていただき、それに感化された約2名がこの夏テゼに向けて心を燃え立たせております。この集まりは毎月持つ予定で、教会について素朴な疑問を出し合ったり、一緒に祈ったりして行ければと思っています。

## 「エイティーズ(仮)」の集まりについて

東京教区 中村真希

昨年の全国青年大会に参加した有志により、青年のための黙想と聖書の会が発足しました。その名も「エイティーズ(仮)」。なぜ80sかという、偶然にもこの企画の賛同者に80年生まれが多かったという安易な理由からです。そのネーミングからも分かるように、「黙想と聖書」という言葉から連想されるような堅苦しいイメージではなく、教会に連なる青年として、普段機会のない聖書の専門的な読み方を学んでみたり、そもそも祈って何!?!といったような所から、講師を招いて黙想を体験してみたり、そんな意外と根本的なところを楽しく学んでみようという企画です。

こういう企画は自分の教会や教区だけでやろうとすると、人を集めるところから始まってけっこうエネルギーがいるものですが、さすが全国青年大会、こんなことやってみてみたい人が意外といるもんだということが分かりました。全国にちらばっている同じ目的を持った青年たちが集まり、それぞれの環境と照らし合わせながら教会の根本について学び、思いを分かち合い、またちらばってゆく。100%自分たちの興味で始まった企画ですが、だからこそとても充実した前向きな企画であると感じます。

同じ関心をもった仲間と集い、話をするだけでもずいぶん励まされ、自分の現場に帰るエネルギーやきっかけを得られるものだというのを、この企画を進めてゆくに連れ、実感・確信しています。このようなミニ企画があちこちで盛んになっていけば、教会の未来も明るい、かもかもしれません。80sがその先駆的な存在になれば嬉しいなと思います。

### 平和のかたち ①

今からスタートした企画です。「あなたにとっての平和って?」との問いかけに、それぞれが思う平和のかたちを、リレートーク形式で語っていただきます。

京都教区 谷景子

ロックの神様、忌野清志郎が逝った(敬意を込めて、敬称略)。私は特別ファンというわけではないが、気になる存在ではあった。

清志郎のRCサクセション時代のアルバム「カバーズ」を聞いた。清志郎は現状(大分昔のアルバムですが)を憂い、何かおかしくなってるぞ!それでいいのか!俺は嫌だあ!と叫び、強烈に平和を訴えているように私には聞こえた。でも清志郎は「平和を求めようぜベイバー」とは言わない。清志郎にとって、平和は求めるものではないようだ。人は何のために生きていくのだらう、と考えることがある。今のところ私は、

人は皆生きるといふ命(命)を受け、偉くなるためでも賢くなるためでもなく、人のためにでもなく、「どのように」は二の次、ただ生きるために生きているのでは...と思う。命は万人に与えられた神の奇跡、等しく大事なものを、守るべきもの。私もあなたも大人も子どもも、全て等しく与えられた命を守るために生きている。「全て等しく」だから、私にとってあなたの命も大事で守るべきもの。それに気づいたときに愛が生まれ、その対象が広がって...平和。清志郎はライブなど折々で皆に「愛しあっているかい?」と問いかけていた。それは清志郎が愛から出発して行き着く所を夢見ていたからではないか、と私は思う。

いつか、天国にいる清志郎に「愛しあっているぜベイバー」と答えたい。

## I A Y N (国際青年ネットワーク) in 香港について

IAYN の会議が 2009 年 3 月に香港で行われ、アジアのリージョナルコーディネーターである池住圭さん（管区青年委員）が出席されました。

日本聖公会としては、昨年 8 月の全国青年大会や各教区の青年活動などについて報告。特に全国青年大会の報告は好評で、なぜ今年沖縄なのかという話を中心に高い関心が寄せられました。9 月 22 日のリユニオンのこともお知らせしました。各国のみなさんにも情報を提供し、ブースが作ればおもしろいと話していたので、世界に向けて発信がなかなかできていない日本の青年自身が、これを機に情報交換できればと考えています。1997 年に次いで 1,200 人規模の国際青年大会を 2011 年に香港で開きたいと企画をしているそうです。

また、アメリカ聖公会のユースコーディネーターから、日本に向けて青年を 1 人送りたいという話があります。1 年間（09 年 9 月～10 年 8 月末）名古屋を拠点に滞在し、各教区や青年委員会の様々なプログラムに参加して学びたい、とのことでした。

（青年ネットワーク事務局／山田拓路）

## 釜ヶ崎から見えてくるもの

第 31 回 SCM(Student Christian Movement) 現場研修 報告

### 第 31 回 SCM 釜ヶ崎スタッフ

大阪教区 荻野直人

2009 年 2 月 28 日から 3 月 7 日の期間に、第 31 回 SCM 研修が行われた。ひとつひとつのプログラムに関する報告は後日発行される報告集に委ねるとして、ここではスタッフを務めた私が研修全体を通して感じたことについて述べたいと思う。

2008 年の末ごろからのアメリカを震源地とした世界恐慌の影響により、日本国内でも労働や社会保障の問題が派遣村やネットカフェ難民といった社会現象として顕在化した。そのような状況の中で今回の SCM 研修は行われた。

多くの大企業は自己利益のみを求め、人間を単なる労働力として都合よく扱う。そして、政府は国際的な経済競争力を高めるために企業を野放しにする。このような状況の中で、立場の弱い労働者は人間としての尊厳すら奪われ、憲法において国民の権利として規定されている「文化的で最低限度の生活」がまったく保障されていないという事態に陥っている。釜ヶ崎で野宿者の支援にあたっている人たちは、現在国内で巻き起こっている深刻な事態を何年も前から予測していた。このままでは、全国の寄せ場のみならず日本社会全体が釜ヶ崎のようになってしまう（日本全体の釜ヶ崎化）ということ、常に我々に対して警告し続けてきた。それでも、私たちはその警告に対して耳を塞ぎ、無視し続けてきた。その結果として、ワーキングプアの急増や派遣村という現象が存在している。この認識を、どれだけの人たちがもっているのだろうか。

私たちは、気付かなければならない。人間はただの労働力であり、人間の命などは労働する機会のエンジンにしかすぎないという考えをもっているということ。人間が路上で野垂れ死んでいても誰も振り向かない社会で生活していることを。目先の利益に捉われて誤った政治選択をしてしまったことを。現在日本で起きている問題は、私たちに「気付き」と「決断」を迫っている。私は、ここでの決断がこれからの日本社会に大きな影響を与える可能性をもっていると率直に感じる。

昨今の雇用と社会保障の問題は、人間に対するひとつの挑戦である。人間に対する挑戦を、人間が作り出しているのである。この現状も私たちは受け止めなければならない。いつの時代も人間を殺すのは人間であり、人間を救い出すのも人間なのである。



（大阪・釜ヶ崎の三角公園での炊き出しの様子）

## 新・日本聖公会青年プログラム参加助成制度 運用開始！

### ◆青年プログラム参加助成制度とは・・・

この助成制度は、日本聖公会の青年たちが、様々な研修・プログラムに参加し、その経験を日本聖公会、とりわけ青年活動に生かすことを目的とし、参加に係る費用を補助するものである。日本聖公会青年委員会が運営し、各教区に設置された「青年担当者」が窓口となる。

### ◆参加助成制度の概要

対象：各教区青年担当者の推薦する者。

助成内容：参加する研修・プログラムにかかる費用の一部を補助する（助成金を充当する費目は特に定めない）。

管区および青年委員会が主催するプログラムは、原則助成の対象外とするが、青年委員会が指定するプログラムについてはこの限りとしなない。

【青年委員会指定プログラム】 \*2009年沖縄週間／沖縄の旅

助成金額：1回一人あたり上限5万円とし、年間の支出総額は30万円程度を予定。

選考：助成の対象プログラムおよび助成金額は、各教区青年担当者と所属教会牧師等との協議を受け、青年委員会により決定する。

なお、選考基準は以下の通りとする。

\*参加の目的

\*参加するプログラムの内容

\*所属教会や所属教区、また日本聖公会（青年活動）との関連およびプログラム参加後の影響度

\*他機関等からの助成・援助の困難性

応募方法：各教区青年担当者へ申請書類を提出する。

\*詳しくは、青年ネット HP (<http://www.nskk.org/province/youth/>) をご覧いただくか、各教区青年担当者まで。

## 第7回成年会のご案内

全国青年大会の流れから発足した成年会（20代後半～40代の集い）今年で4年目を迎えますが、第7回実施要項が決まりました！

日時：7月25日（土）10時～17時ごろ

場所：神戸聖ミカエル教会垂水伝道所

申込み締切：7月19日（日）

申込み・問合せ先：神戸聖ヨハネ教会 塚田直文 mail:sakoda@fd5.so-net.ne.jp

078-914-2655 もしくは 090-8655-5950（さこだ）まで

京都・大阪・神戸教区中心ですが、他教区からの参加も歓迎です。

前回は、今年1月大阪聖パウロ教会にて、坂本（旧姓荒川）真紀さんの指導でゴスペルを楽しみ、賛美する喜びをみんなで分かち合い、聖餐の恵みに預かりました。毎回、同世代が共に集い、語り、祈り、賛美する時間はとても喜びに満ちた時間です！！

（大阪教区・西宮聖ペテロ教会：当舎あずさ）



前回成年会の参加者

### 今後のプログラムについて・・・

6月8日（月）～12日（土） 日本聖公会第1回韓国スタディ・ツアー 地域に密着した宣教活動の多様性に学ぶ

6月19日（土）～22日（月） 2009年沖縄週間／沖縄の旅 命（ぬち）どうぞ（たから）～本島に武器は必要か？～

7月28日（火）～8月4日（火） 第2回「多民族・多文化共生キリスト者青年」現場研修プログラム

（会場：北九州→釜山、堤岸里（チェアムリ）、ソウル）

8月13日（木）～18日（火） 第4回 日韓聖公会青年セミナー 2009 ～変化する未来と日韓聖公会青年の課題～

9月22日（火）～23日（水） 日本聖公会宣教150周年記念プログラム「みんな集まれ！」（全日本青年大会リ・ユニオンほか）

日本聖公会宣教150周年記念礼拝

\*プログラムの詳細及び最新情報は、青年ネットブログ (<http://youthnskk.exblog.jp/>) をご覧下さい！

発行 日本聖公会全国青年ネットワーク事務局

名古屋市昭和区宮東町260

tel 052-781-0165 fax 052-781-4334

e-mail youth.po@nskk.org

www.nskk.org/province/youth/